

2023 年度大学入試展開図

新型コロナウイルス感染症収束へ、ただし影響は継続
(高校在学中を通しての対面イベント自粛の影響。長距離移動への敬遠や景気への影響が残る。)

2023 年度入試動向 (秋期～冬期(年内))

共通テスト志願者数…5年連続減少(現役=2.8%減少、既卒等=6.5%減少) コロナ禍の中で、浪人(特に再受験生)が減少
総合型選抜・学校推薦型選抜(年内入試) 志願者数拡大へ…中下位層の一般選抜敬遠傾向が顕著

2023 年度共通テスト実施結果

受験率前年度並…(2022 年度)92.08%⇒(2023 年度)92.48% ※センター試験時代の 95%前後よりはダウン

平均点のアップとダウンの科目数は拮抗、前年度の「数学ショック!」で異常低平均点だった数学が大幅アップ

<UP> 数学 II・B(+18.4 点)、数学 I・A(+17.7 点)、日本史 B(+6.9 点)、化学(+6.4 点)など

<DOWN> 倫理、政治・経済(-9.1 点)、英語リーディング(-8.0 点)、世界史 B(-7.4 点)、政治・経済(-5.8 点)、国語(-4.5 点)、倫理(-4.3 点)など
5 教科 7(8)科目 <900 点満点> 予想平均点

文系…532 点(+24 点)、理系…551 点(+38 点)…得点率は文系 59%、理系 61%。2022 年度を除けばセンター試験時代を含めて、過去 10 年間
では最も低いレベル⇒共通テストはセンター試験よりも「高得点はとりにくい」

出題傾向は「読解力」や「思考力、判断力」を必要とし、「実用的な素材」を用いた受験生にとっては馴染みのない出題が定着。

国公立大出願状況

志願者数…前年度対比指数 99、微減だが 2 年ぶり減少

<理由>

- 18 歳人口減少による共通テスト受験者数の減少。(ただし、共通テスト受験者の減少率よりは国公立大学志願者数の減少率は小さく、共通テスト平均点アップと厳しい経済環境を背景に国公立大志向は高まった。)
- 共通テスト独特の出題形式への敬遠。(大都市部を中心に共通テスト志願者数が減少し、成績ボリュームゾーンを中心に慣れ親しんできたマークシート方式の出題である私立大学専願へシフトする動きが見られた。)

■系統別動向

歯の増加が目立つ、一方で国際関係、人文科学、外国語、スポーツ・健康の減少が目立つ。

■地区別動向

前期は中国、北関東でやや増加、四国は大幅減少。他は前年度並。後期は北海道が大幅増加、中国が大幅減少。

■データネット(共通テスト自己採点集計)目標ライン別動向

前期はデータネット目標ライン 70~75%のグループがやや増加、後期はデータネット目標ライン 80~85%のグループがやや増加。

■難関大動向

◎難関国立 10 大学(旧帝大+東京工業大+一橋大+神戸大)
前期は全体では微減。大学別では、東京工業大は増加、京都大はやや増加。一方で、東北大、神戸大はやや減少。他の一橋大、北海道大、東京大、名古屋大、大阪大、九州大は前年度並。後期は全体では微増。募集人員の少ない大学では、一橋大、名古屋大は大幅増加、京都大も増加。一方で、東北大は大幅減少。募集人員が多い大学では、北海道大は増加、九州大は減少、神戸大は前年度並。

◎医学部医学科

前期、後期いずれもやや増加で、前期は 3 年連続、後期も岐阜大の募集停止があったが 2 年連続増加。

一般選抜は 文低理高

私立大出願状況

志願者数…前年度対比指数 96、やや減少

<理由>

- 18 歳人口減少および浪人発生数減少に伴う受験人口全体の縮小。
- 中堅大学における年内入試(学校推薦型選抜、総合型選抜)へのシフト。
- 私立大一般選抜全体の競争緩和による 1 人あたりの併願校数減少。
- 地方の厳しい経済状況を反映した地元での国公立大志向の高まり。

■系統別動向

18 系統中 12 系統が減少、特に生活科学、保健衛生、教員養成・教育は 10%以上減少。私立大全体指数との比較では上回った系統が 10 系統、下回った系統が 8 系統と均衡。なお、上回った系統で文系は経済・経営・商の 1 系統のみで、一般選抜では「理高文低」の傾向が明らか。

■地区別動向

全地区で減少し、私立大全体指数を上回ったのは志願者数の多い首都圏、近畿の 2 地区のみ。四国は大幅減少、北関東、甲信越・北陸、中国、東北、東海)は減少、北海道、九州・沖縄はやや減少。

■模試合格判定ライングループ別動向

文系では全グループが減少で、A グループは微減、B グループ、C グループはやや減少、D グループは減少、E グループは大幅減少と B 判定ラインが低いグループほど減少率が大い。理系では A グループ、B グループ、C グループはいずれも増減率が小さく、一般選抜の機能を維持。しかし、D グループでは文理の差が小さく、文系同様に「年内入試」主体の選抜。E グループは大幅減少だが、対象大学が少なく参考程度。

【グループ分け基準(③SB 共通模試の B 判定ラインによる分類)】

A=65 以上、B=60~65、C=55~60、D=50~55、E=50 未満

2023 年度入試のキーワード 2022 年度に引き続き「CCB入試 II」

① Covid-19 コロナ禍の影響が徐々に緩和

- 私立大出願校数絞込み、遠距離移動回避、安全志向
- 地方→大都市部への移動回避が緩和(逆はまだまだ)

② Common Test 共通テスト平均点アップ

- (成績上位層以外) それでも、出題傾向の変化を嫌い、私立大共通テスト利用方式を敬遠
- 私立大共通テスト利用方式「事後出願」は明暗分ける

③ Bipolarization より大きな 2 極化へ

- 強気な志望⇔一般選抜回避
- 最難関大の志願者数増加…「逃げない成績上位層」
共通テストはむしろ対策が楽、難関国公立大から難関私立大(共通テスト利用含む)への併願が増加
- 合格目標偏差値 55 未満の私立大志願者数が大幅減少
- →一般選抜回避→(指定校)推薦や総合型選抜へ「戦わない受験生!」